



# SGN News



第42号 2023年8月  
滋賀グリーン活動ネットワーク  
ニュース

～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

## 滋賀グリーン活動ネットワーク

### 「新活動ビジョン」(活動期間: 2023年4月～2026年3月) 決定しました!

#### ミッションの位置付け

|                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| A. 事業者の環境行動の水準を高める | D. 未来に向けて活動を深める |
| B. 会員の想いと活動をつなげる   |                 |
| C. 「未来よし」な暮らしを広める  |                 |

| ビジョン   | 滋賀から「グリーン経済」をつくる<br>～産・官・民・学と協働してMLGs※の達成を目指し、子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる持続可能で「未来よし」な社会をつくる～ |                                                                                                                    |                                                                                                                                         |                                                                                                      |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ミッション  | A. 事業者の環境行動の水準を高める                                                                    | B. 会員の想いと活動をつなげる                                                                                                   | C. 持続可能で「未来よし」な暮らしを広める                                                                                                                  | D. 未来に向けて活動を深める                                                                                      |
| 活動のテーマ | ・事業者のグリーン購入の取組推進<br>・環境・CSR・CSV活動の推進                                                  | ・グリーン購入をはじめとする消費行動を通じた課題解決の研究推進<br>・会員の連携した取り組みの推進                                                                 | ・グリーン購入、エシカル消費の普及啓発<br>・環境配慮商品に関する情報提供                                                                                                  | ・活動のアピール、情報提供<br>・グリーン購入推進方法の検討や政策提言<br>・活動全体の総括                                                     |
| プロジェクト | 実践促進事業                                                                                | 連携推進事業                                                                                                             | 暮らし方普及事業                                                                                                                                | 企画広報事業                                                                                               |
|        | ・グリーン購入+エシカルキャンペーン(事業者対象)<br>・自治体のグリーン購入 担当者連絡会議<br>・GPプラン滋賀推進事業【県委託】運営等              | ・会員交流の場の提供<br>・研究会活動<br>食のグリーン購入研究会<br>ゼロエミッション研究会<br>エコ交通研究会<br>生物多様性と環境・CSR研究会<br>MORIと暮らしの研究会<br>・グリーン経済フォーラム 等 | ・グリーン購入+エシカルキャンペーン(消費者対象)<br>・環境配慮商品紹介(いちおしリスト他)<br>・自治体部会「買うならエコ!」リレー<br>・啓発資料の作成・貸出<br>・講師派遣事業<br>・地域事業への出展・参加・協力 等<br>・地域の関係団体との連携 等 | ・会員総会<br>・ニュースレター発行<br>・ホームページによる情報提供<br>・メルマガ・FAXリリース<br>・表彰制度<br>・活動成果の確認と調整<br>・政策提言<br>・SNSの活用 等 |
| 今期活動目標 | キャンペーン参加団体数<br>年間200団体を目指す                                                            | 1. 会員の参加カバー率を3年間で上げていく<br>2. 研究会に参画する会員を増やす                                                                        | キャンペーン個人参加者<br>年間1万人以上を目指す                                                                                                              | 年1回以上活動に参加する会員を<br>3年間で70%に引き上げる                                                                     |

※MLGs(Mother Lake Goals マザーレイクゴールズ): 琵琶湖版のSDGsとして、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、琵琶湖を切り口として設定された滋賀県独自の13のゴール(<https://mlgs.shiga.jp/>)

第37回理事会で承認され、5月29日に開催された第12回定時会員総会にてお披露目された新活動ビジョンです。ビジョンそのものは大きく変更しない、というのが満場一致の意見であり、前回と異なる点は「産・官・民・学と協働してMLGsの達成を目指し、子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる持続可能で「未来よし」な社会をつくる、という文言が追加されたことです。MLGsは「琵琶湖」を切り口として設定された滋賀県独自の13のゴールであり、多様な主体が参加するマザーレイクフォーラム・びわコミ会議参加者の「びわ湖との約束」を元にワークショップを重ねて13のゴールを定め、2021年7月にスタートしました。我々SGNも賛同しており、多様な主体が協働するという点で、SGNの趣旨にも合致していることから、一緒に達成を目指したいと考えています。



## MLGs (Mother Lake Goals マザーレイクゴールズ)



### 公式WEBサイト

マザーレイクゴールズ公式サイト「MLGs WEB」  
<https://mlgs.shiga.jp/> MLGs WEB 検索



## INDEX



- 滋賀グリーン活動ネットワーク「新活動ビジョン」  
(活動期間: 2023年4月～2026年3月) 決定しました! ... 1
- グリーン購入シンポジウム2023 ... 2
- 第6期役員紹介 ... 3  
◎ 会長、副会長、理事、監事、幹事
- 2022年度中にご寄付をいただいた団体 ... 6

- SGN会員でつなぐリレートーク  
ダイキン工業株式会社 滋賀製作所 ... 7
- 会員限定 啓発資料 無料貸出し ... 7
- 会員発エコ商品情報 ... 8
- 潮流「プラスチック条約策定に向けた  
国際的な議論が高まっています!」 ... 8

# グリーン購入シンポジウム2023

## 滋賀から“グリーン経済”をつくる

### ～未来を拓く『シン・グリーン購入』～

【会場(コラボしが21 3階大会議室)開催報告 企画広報

#### プログラム

- 開会挨拶 秋山 道雄 (SGN会長)
- 基調講演 『持続可能な消費と生産～アフターコロナとウクライナ』  
中原 秀樹氏 (地球環境戦略研究機関 (IGES) シニアフェロー /  
東京都市大学 名誉教授 / 国際グリーン購入ネットワーク (IGPN) 名誉会長 /  
日本エシカル推進協議会 名誉会長 / SGN アドバイザー)
- 講演 『マザーレイクゴールズ (MLGs) が目指す持続可能な社会』  
三和 伸彦氏 (滋賀県理事 (琵琶湖政策・MLGs推進担当))
- 事例報告1 『印刷業界が取り組む『水なし印刷』で実現するカーボンオフセット』  
黒田 守氏 (アインズ株式会社 本社営業部長兼地域創生プロデューサー)
- 事例報告2 『市役所新庁舎のZEB化について』  
五百木 陸氏 (高島市役所 総務部 行財政管理局 行政管理課)
- 事例報告3 『環境先進企業への挑戦 ～廃木材を活用した歩道づくり～』  
谷口 圭汰氏 (田中建材株式会社 営業課)
- 質疑応答・ディスカッション  
コーディネーター：藤井 絢子氏 (元(株)菜の花プロジェクトネットワーク 代表 / SGN アドバイザー)

◆開催日: 2023年5月29日(月)

◆参加者: 約100名



中原 秀樹氏 藤井 絢子氏



パネルディスカッションの様子、登壇者の方々

『グリーン経済』とは、商品・サービスの生産・流通・消費において地球環境に配慮した「グリーン活動」に転換することで、子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる持続可能な社会をつくること、または、それらを通じて形成される社会関係のことを言います。その達成イメージは、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」とも一致し、滋賀県が目指すMLGs (Mother Lake Goals マザーレイクゴールズ) に重なるとも言えます。

2020年に起こった世界的パンデミックにより、大量の使い捨てが余儀なくされ、また、2022年にはロシアのウクライナ侵攻により食糧調達やエネルギー調達の世界的事情が大きく変わる中、それでも止まらない地球温暖化に私たちはどのように立ち向かっていくことが出来るのでしょうか。滋賀県が全国に先駆けて進めてきた『グリーン購入』…その原点に立ち戻って、グリーン購入の本質に触れ、これからの時代に見合った新しい捉え方の「シン・グリーン購入」を考えました。

#### 基調講演『持続可能な消費と生産～アフターコロナとウクライナ』 中原 秀樹氏

異常気象が「普通」になった、と気候変動や異常気象の影響が深刻さを増していること、発展途上国を中心に、飢餓を始め水害や熱波等様々なリスクについてお話いただきました。グリーン調達・CSR調達・エシカル消費への道のりについても説明され、SDGsについての件では「SDGsの18番目に“子供たちの未来を奪わない”を！」と強調されました。またSGNの会員企業に向け、「市民目線の中小企業者サステナビリティ自主調査プロジェクト」への参加や持続可能な社会の形成を呼びかけられました。

#### 講演『マザーレイクゴールズ (MLGs) が目指す持続可能な社会』 三和 伸彦氏

びわ湖を守る理由として7つの価値があること、びわ湖保全施策の歴史、マザーレイクゴールズについてお話いただきました。マザーレイクゴールズについては、「びわ湖を通じてSDGsをアクションまで落とし込むツール」であり、「びわ湖を通じて自分たちの活動がSDGsにつながっていることを発見するツール」でもあると分かりやすくご説明いただき、最後に参加者全員で元フリースタイルスキー・モーグル日本代表の伊藤みきさんプロデュースの「MLGs体操」で頭も身体も気持ち良くほぐしました。

#### 事例報告1『印刷業界が取り組む『水なし印刷』で実現するカーボンオフセット』 黒田 守氏

「水なし印刷」とは2019年にグリーン購入法が改正された際、判断の基準にVOC抑制対策としてオフセット印刷のトップに記載されたものです。その技術、また「水なし印刷」を推奨する(一社)日本WPAが構築した「カーボンオフセット」の仕組みについて詳しくお話いただきました。最後に本日の来場者が水なし印刷を採用し、カーボンオフセットを行い、活動をPRしていただくことで社会に変化を与えていきたいと締めくくられました。

#### 事例報告2『市役所新庁舎のZEB化について』 五百木 陸氏

平成17年(2005年)に5町1村が合併して以降、分散している本庁機能と災害対策本部機能の一元化をはかると同時に建物のZEB化(4段階中の「ZEB Ready」)を進められました。元々ZEB化の計画ではなかったものの見直しを図ってZEB化をされた経緯を詳しくお話いただきました。

#### 事例報告3『環境先進企業への挑戦 ～廃木材を活用した歩道づくり～』 谷口 圭汰氏

自社工事で出た解体廃材のリサイクル方法を模索し研究を重ね「木質加熱アスファルト舗装-ハーモニーロードウッド-」という製品で様々な賞を受賞されています。これはリサイクル木材を使用し、製品の再利用が可能で、施工することでCO<sub>2</sub>を歩道空間に固定することができます。北は青森県、南は種子島まで、また東京オリパラ会場(有明体操競技場)での施工実績やその他数々の取り組みもご紹介いただきました。

講演後のパネルディスカッションでは、藤井絢子氏のコーディネートで議論が深められました。環境に良い素材がなかなか行政へ広がっていないがどう対応すれば良いかという質問には、中原氏より「先に海外で実績を作り、逆輸入を。」との提案がありました。藤井氏からはBDFやアフリカでのお話もなされ、「子供たちの未来を奪わないために、自分たちの日常生活が全て海外と繋がっているという想像力を持つこと。2030年に間に合わないではなく、間に合わせるために頑張りましょう。」とエールをいただきました。その後、4年ぶりの開催となった会員交流会はSGNならではの温かな雰囲気でも盛り上がりしました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

## 第 6 期 役 員 紹 介

5月29日に開催した第12回定時会員総会にて第6期役員が決定しました。  
メッセージと共にご紹介します。

## ～滋賀でGX(グリーントランスフォーメーション)の実践を～

**会 長** 滋賀県立大学 名誉教授 **秋 山 道 雄**



2023年7月4日の日本経済新聞朝刊一面に、「社会保障 改革の論点」という記事が載っています。の中で、滋賀県は2020年に県民の平均寿命が男性全国1位、女性が2位と長寿なのに、後期高齢者1人当りの医療費と介護費は全国平均を下回っているという結果を紹介し、大文字で「費用を抑え長寿 滋賀を範に」という見出しをつけています。

滋賀県は、1965年時点では男女とも平均寿命は全国平均以下でしたが、1986年に県民の健康状態を調査しデータベースを作るとか、2001年に男性で5割超だった喫煙率の半減を目標に掲げ、生活習慣病対策も強化するといった取り組みが登場しました。県民や県・市町の保健行政に携わる職員の地道で継続的な取り組みが、今日の成果を生んだことが窺えます。

滋賀県は、2022年3月に「滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくり推進計画」を策定し、2050年のCO<sub>2</sub>ネットゼロと2030年の中間目標（2013年度のCO<sub>2</sub>排出量を半減させる）を設定しています。GX（グリーントランスフォーメーション）とは、化石燃料依存型の生産や消費の仕組みから気候変動による危機的状況を回避できるような経済・社会の仕組みに移行するプロセスですが、具体的な実践の内容は①再生可能エネルギーの生産と利用を増大させる、②家庭・事業所・地域等で省エネルギー型機器への転換や省エネ行動への転換を図る、の2点が主体となっています。

長寿と対策費用の効率化を同時に達成した滋賀県ですから、GXの実践においても、県民・NPO・事業者・行政等の協働を通じて、その目的が達成されることを期待したいと思います。

**副会長**

滋賀県立大学  
環境科学部  
教授

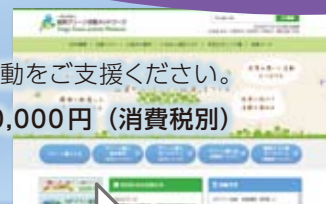
**高 橋 卓 也**

滋賀県立大学で、環境経営、森林政策計画の教育研究をしています。本ネットワークでは「MORIと暮らしの研究会」で企業と森林とをどう近づけるか模索中です。近江商人の三方よしについても滋賀の地元観光を兼ねつつ勉強をしています。2030年を目標年次とするSDGs、日本の2050年カーボンニュートラル目標とSGNがこれまでつちかってきた経験を活かすときが来たと言えます。とはいえ、気負わず楽しく、みなさまとご一緒に活動に参加できればと思います。よろしくお願いいたします。

副会長二名のうち、もうお一方は次号のニュースレターでご挨拶をいただく予定です。

SGNでは、ただいま活動をご支援くださる「協賛バナー広告」を募集中です！  
バナーはSGNホームページのトップページ左上に掲載させていただきます。  
トップページへのバナー広告で、皆様の商品や取り組みをPRしながらSGNの活動をご支援ください。

【掲載期間】 6か月または12か月 【広告掲載料】 SGN会員価格 6ヶ月 60,000円（消費税別）  
【申込締切】 原則として掲載開始日の1月前

**バナー広告募集中**



## 理事



株式会社 沢田商店  
代表取締役

### 沢田 昌宏

グリーン活動ネットワークに参加して15年が経ちました。私のような小規模企業や中小企業にとって、カーボンニュートラルを目指すことは、リクツとして分かっていても、実際の行動へのハードルがまだまだあります。それでも、急いで取り組まねばならない緊急の課題となってきました。中小企業の立場から、理事としてこの運動を支えていきたいと考えています。



日本電気硝子株式会社  
環境部 担当部長

### 外間 喜春

当社では、CSRの重要課題として「環境」「多様性」「地域」を設定しています。「環境」では、“自然との共生”を大切な価値観として環境に優しいモノづくりに努めています。2023年1月にCSR委員会を設置し、ESGやSDGs等広くサステナビリティに関する課題についても取り組んでいます。今後も、皆さんと一緒に、価値観を共有し、社会の持続可能な発展に貢献していきたいと思っています。



株式会社 平和堂  
サステナビリティ推進室 室長

### 鷗鷯 真知子

近年の企業を取りまく環境課題は、地球温暖化をはじめ廃棄物の削減や資源循環など多岐に渡っています。また、気候変動に伴う災害への対応頻度が増え、ますますグリーン経済の必要性を感じる状況となっています。これからも「滋賀からグリーン経済をつくる」ための活動を、皆さまと共に推進してまいります。



NPO 碧いびわ湖  
代表理事

### 村上 悟

昨夏から月に1回、日野町内の「しゃくなげ溪」を歩く会をしています。生き物の美しさ、子どもの発見力、大人の知識などが混ざり合い、とても豊かで安らかな時間です。一見ごちゃまぜだけど秩序がある、雑木林。その姿が持続可能な社会の手本だと思います。まずは身近な森に身を置くこと、そこから始めてみませんか。



滋賀県  
会計管理局 次長

### 富田 芳男

滋賀県では、令和2年1月に「CO<sub>2</sub>ネットゼロムーブメント」キックオフ宣言をし、令和4年4月には「滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」を施行しました。かつて皆さんと共にグリーン購入の輪を広げたように、2050年までに県域からのCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロの実現に向けて、今後強力に取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。



草津市  
環境経済部 部長

### 田中 三男

草津市では令和3年12月、議会と共同で「草津市気候非常事態宣言」を行い、2050年に温室効果ガスの排出量を実質ゼロにすることをめざしております。市として、グリーン購入をはじめとする環境負荷低減の取組を行いつつ、市民の皆さまへもカーボンニュートラル実現に向けた取組を呼びかけ、共に進めてまいりたいと思っています。

## 監事



公益財団法人 滋賀県産業支援プラザ  
常務理事 兼 事務局長

### 笹井 仁治

プラザでは、SDGsの理念を念頭に、中小企業の発展段階に応じた総合的かつ一体的な各種支援をワンストップで行っています。令和5年度は「CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会に向けた取組」を支援の柱の一つとしており、省エネ診断から設備導入、さらには伴走支援などに取り組んでいます。今後とも皆さんとともに、CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会の実現を目指してまいります。よろしくお願いします。



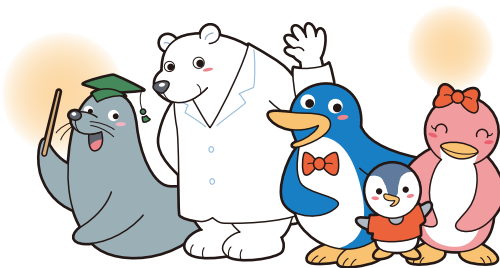
株式会社 滋賀銀行 総合企画部  
サステナブル戦略室 広報グループ長

### 成子 真人

滋賀銀行は、「お金の流れで地球環境を守る」との考えのもと、環境経営を早くから実践しています。昨今の気候変動や脱炭素、生物多様性保全等の社会的課題は、私たちだけでなく将来世代へも大きな影響を与えています。事業を通じて持続可能な地球環境の保全に貢献するとともに、誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向け、未来志向で取り組んでいきますので、よろしくお願いします。

## 幹事

幹事には、企業・各種団体・県および市町から24団体に組織としてご就任いただいています。SGN事業の企画・運営は幹事会で行っています。



## アインズ株式会社



代表取締役専務

**谷 康夫**

地球にとって、地域にとって、企業にとって、つながるひと、はたらくひとにとって Social Goodな存在へ。私たちはソーシャルグッドプロデュース企業へ進化し、提供する商品・サービスを通じて『社会課題・顧客課題』を実現します。

## 油藤商事株式会社



代表取締役

**青山 裕史**

脱石油・脱炭素時代のガソリンスタンドの在り方を考えると色々なイメージが湧いてきます。そのイメージを具現化する1つのキーワードが「グリーン」であるのは間違いないでしょう。しっかりとスローエネルギーを展開していきたいです。

## 株式会社 一花



代表取締役

**岩上 智佳子**

「花育」による地域活動は、自然との関わりや創作の楽しさ、人との繋がりなど感性を豊かに育む機会を創出します。植物に親しめる平和な環境づくりへの貢献に繋がりたいと思います。

## 大阪ガス株式会社 滋賀事業所



支配人補佐

**小林 雅幸**

エネルギーを中心に事業展開するDaigasグループにとって環境保全是重要な使命です。さらなるエネルギーと資源の効率的利用と低・脱炭素化に挑戦し、持続可能な社会の発展に貢献します。

## 新江州株式会社



エコマテリアル事業本部  
包装・機能材部 副部長

**澤 幹夫**

当社は、『人を大切に』の経営理念のもと、お互いを尊重し信頼の絆を育むとともに、環境先進県である滋賀県に立脚する企業として、自然環境に配慮しながら、豊かな社会の発展と暮らしの実現に貢献して参ります。

## 株式会社 ダイフク



サステナビリティ推進部  
環境品質グループ グループ長

**山本 剛広**

気候変動や生物多様性保全など、企業に求められることは年々広がっています。本業を通じて、また、企業間の連携で何ができるのか、皆様と一緒に考えていければと思います。

## たねやグループ



経営企画室 リーダー

**木田 幸司**

当社は自然から恵みを頂いてお菓子を作り販売させてもらっています。原材料の調達から加工、流通、販売、廃棄に至るまで環境に配慮し、持続可能な社会を構築するために様々な事に取組んでいます。

## びわ湖パナソニックファミリー会



パナソニック株式会社  
くらしアプライアンス社  
人事センター 総務部 部長

**小山 和俊**

びわ湖を有する滋賀県で事業活動をさせて頂いているパナソニックグループの集まりです。地域の皆様とSDGsを軸に、地球環境を次世代に繋いでいくよう取り組んで参ります。

## びわ湖放送株式会社



取締役放送管理局長

**松本 圭司**

「SDGメディア・コンパクト」に加盟しました。視聴者にSDGsに対する関心と達成に向けたムーブメントを高めることを約束しています。地域メディアとして持続可能な社会をめざしてまいります。

## 藤野商事株式会社



専務取締役

**中村 明久**

Covid-19・ウクライナ侵攻で世界のSDGs指数は3年連続で後退しました。一方、世界が繋がっていることを意識する機会となりました。「持続可能な経営のためのセルフチェック」からスタートしたいと考えます。

## ベストハウスネクスト株式会社



代表取締役

**吉本 智**

『道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である』SGNの一員として、経済と環境に貢献できるような情報・知識を共有できればと思っています。叱咤激励よろしくお願いたします。

## リコージャパン株式会社



デジタルサービス営業本部  
滋賀支社 事業戦略部 部長

**川島 圭**

リコージャパン株式会社はデジタルサービスの提供を通じ、持続可能な社会の実現に取り組むことでMLGsの達成に貢献します。

## 特定非営利活動法人 愛のまちエコ倶楽部



事務局次長

**伊藤 真也**

私たちは「菜の花エコプロジェクト」を通して、自立した地域資源循環型社会をめざす取り組みを柱に活動しております。暮らしの中から食とエネルギーの自給を目指して一緒に取り組んでいきましょう!



## 公益財団法人 淡海環境保全財団



アドバイザー

**大野 倫香**

県内で温暖化防止を推進しているセンターとして、家庭、学校、事業所の皆様に啓発活動を行っています。センターの活動のさらなる充実とネットワークの拡大で、SGNの発展に貢献したいと考えております。

## グリーン近江農業協同組合



管理部 総務課 課長

**福田 真由美**

JAグリーン近江では、コロナ禍以前よりグレードアップした活動を目指して、着実な一歩を進めて行きます。今年度も、グリーン活動ネットワークの皆様と一緒に活動できることを大変嬉しく思います。

## 滋賀県生活協同組合連合会



専務理事

**森井 徹**

事業者と消費者をつなぐ存在として、子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる持続可能で「未来よし」な社会をつくることに微力ながら携わっていただければと思いますのでよろしくお願い致します。

## 滋賀県地域女性団体連合会



副会長

**井上 多佳子**

環境にこだわる滋賀県の社会教育関係団体として学習や活動を重ねています。地域の皆さんと一緒に学びを深め、持続可能な未来につながる消費行動をさらに進めていきたいと願っています。

## 滋賀県立大学廃棄物バスターズ



代表

**澤田 奎湖**

当団体は主にプラスチックを扱う研究室の学部生・修士学生で構成されており、その知識を生かしてマイクロプラスチック問題やマテリアルリサイクル事業に精力的に取り組んでおります。

## 輪の国びわ湖推進協議会



運営委員

**南村 多津恵**

脱炭素社会に向けて、だんだんと外堀、内堀が埋まってきました。そろそろ通勤や事業での自動車利用の削減に本腰を入れる時期です。エコ交通研究会の事務局として、皆さんの取組を応援します。

## 日野町



総務課 主任主事

**高桑 大和**

第6回役員となりました日野町総務課の高桑 大和と申します。不慣れなことが多く、総務課にも今年の4月から配属となり、まだまだ勉強中の身ですが、よろしくお願いいたします。

## 大津市



環境部 環境政策課 課長

**小高 弥須夫**

大津市では、平成21年度から市独自の環境マネジメントシステムを運用し、環境負荷低減のための取組を全庁挙げて推進しています。今後も引き続きグリーン活動を進めてまいります。

## 米原市



市民部 自治環境課 主査

**鎌田 亜裕美**

湖北地域にあります米原市役所市民部自治環境課です。脱炭素のほか、公共交通や自治会・協働、公害・廃棄物や自然保護が所管業務です。今後ともよろしくお願いいたします。

## 野洲市



環境経済部 環境課 主事

**駒本 博一**

野洲市では全庁的に紙や物品をグリーン購入にて調達することを徹底しており、職員の意識も、グリーン購入で当たり前に浸透しています。次は市民や事業者の方々にグリーン購入の啓発や意識浸透を図っていききたいと思います。

## 滋賀県



会計管理局 管理課 主幹

**三井 都史子**

滋賀県がグリーン購入実践プラン滋賀登録制度を始めて18年。事業者の皆様の環境意識の高さを生かして、CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会作りにも一緒に取り組んでいきたいと思います。



**現会員数**

**438 団体**

**[企業 359、団体 57、行政 22]**  
(2023年8月1日現在)



## 2022年度中にご寄付をいただいた団体

- イオンペット株式会社 様 (有料レジ袋収益金)
  - イオンベーカリー株式会社 様 (有料レジ袋収益金)
  - 株式会社 未来屋書店 様 (有料レジ袋収益金)
  - イオンリテール株式会社 様 (有料レジ袋収益金)
  - 株式会社 メガスポーツ 様 (有料レジ袋収益金)
- (ご寄付をいただいた日付順)

皆さま  
ありがとうございます。  
大切に使用させていただきます。



# Relay Talk

SGN会員でつなぐ

## リレートーク>>>

オムロン株式会社 草津事業所からのご紹介

ダイキン工業株式会社 滋賀製作所  
空調生産本部企画部

管理グループリーダー 川村 佳奈さん



ダイキン工業は、世界で唯一、空調機器と冷媒の両方を製造する企業として、環境技術を活かした製品・サービスを世界中に提供してきました。主力の空調事業では、空気質の改善を通じて人々の健康的な暮らしに寄与するとともに、労働効率の向上による経済発展にも貢献してきました。

一方で、世界の空調需要は2050年に現在の3倍に拡大するとの予測もあり、電力需要の増大が大きな課題です。安全・安心で健康・快適な空気環境を提供しながら、将来にわたって温暖化影響を限りなく低減することが当社の社会的使命と考えています。

こうした中、当社では様々な環境貢献にも取り組んでいます。例えば、“空気をはぐくむ森”プロジェクトでは、森林保全の取り組みを通じて温室効果ガスの排出抑制に貢献しています。また、滋賀製作所においても、田上山系とびわ湖を結ぶエコロジカルネットワークの形成に力を入れることで、周辺環境とのつながりを強め、より質の高い地域生態系への貢献を目指した「ダイキン滋賀の森」づくりを推進しています。

滋賀製作所では2012年度より敷地内に里山の自然を再現する取り組みを開始し、保全区域を「ダイキン滋賀の森」と設定し、自然再生を評価する生き物をホタルと定め、そのホタルがすめる環境づくりを従業員の手で進めてきました。生態系保全の為に外来種駆除活動や、準絶滅危惧種に指定されているトチカガミの育成、外来種であるキショウブから在来のカキツバタへの置き換え、森に鳥類を呼び込むための巣箱づくりなど、従業員自らが活動に参画し、年々活動の輪が広がり、従業員の環境意識の醸成にもつながっています。

また、この保全区域において、従業員の家族や近隣の小学生を対象とした自然観察会を実施するなど、「ダイキン滋賀の森」を活用した環境教育を毎年行っています。

事業の成長と環境・社会課題の解決をいかに両立していくか、自ら問い続け答えを出していく企業でありたいと考えています。

次回は株式会社 ラーゴさんをお願いします。



ダイキン工業株式会社 滋賀製作所

滋賀県草津市岡本町 1000-2

TEL : 077-563-1151

URL : <https://www.daikin.co.jp>

会員限定

## 啓発資材 無料貸出し

SGN自作の各種啓発パネルや啓発ツール、キャラクター「エコペン」パネルやのぼり等会員限定「無料」貸出しを行っています。

社内研修会、社内展示会、環境イベント等にご活用ください。

詳細はSGNホームページ>会員ページ からご覧いただけます。

(ご覧いただくにはパスワードが必要です。)

不明な方は事務局までご連絡ください ※これらは一例です。







# 会員発エコ商品情報

次号掲載  
「エコ商品情報」  
募集中!

## プラスチックから アルミック容器変更にCO<sub>2</sub>削減

### たねやグループ

たねやではサステナブルなお菓子づくりを目指し、容器や包装の脱プラスチック、資源の消費量削減に向けた商品内容の見直し・改善を進めています。その一貫として、2022年6月から「たねや寒天」、9月からは「本生羊羹」、2023年4月より夏商品の「トマトゼリー」「ブルーベリーゼリー」「清水白桃ゼリー」の容器をプラスチックからアルミック容器へ切り替え、新たな装いで販売しております。アルミは何度でも生まれ変わることが出来、プラスチック削減量3.8tを目指します。

容器の裏側をご確認ください。(シールをはがすものもあります) リサイクルすることで新たな資源に生まれ変わります。



#### 〈お問合せ〉たねやグループ

〒523-8533 滋賀県近江八幡市北之庄町615-1  
お客様相談室：0120-588-666  
URL：https://taneya.jp

## ～ひがしおうみ産～

## 菜たね油『菜ばかり』

### 特定非営利活動法人 愛のまちエコ倶楽部

東近江市で資源循環の取組み【菜の花エコプロジェクト】から誕生した菜たね油『菜ばかり』。

菜種の国内自給率は0.1%未満。貴重な地油を地産地消して、未来世代への持続可能な食と農と一緒に考えていきましょう!

原料である菜種は東近江市内の農家さんと契約栽培し、栽培期間中に農薬を使用せず、遺伝子組み換えではない国産の品種を栽培しております。昔ながらの製法である圧搾方式で丁寧に搾った一番搾りのみの菜たね油です。

最近ではドレッシングやお菓子づくりにも美味しい味方と好評をいただいております。黄金色に輝く、コクのあるまろやかな味わいをぜひお試しください!



#### 〈お問合せ〉特定非営利活動法人 愛のまちエコ倶楽部

〒527-0162 滋賀県東近江市妹町70番地  
あいとうエコプラザ菜の花館内  
TEL：0749-46-8100 E-mail：npo@ai-eco.com  
URL：http://ai-eco.com/

## 潮流

### プラスチック条約策定に向けた国際的な議論が高まっています!

2022年3月、国連環境総会で、プラスチック汚染を解決するための条約「国際プラスチック条約」を2025年までに作ることが合意され、計5回の国際会合で条約の内容についての話し合いを行うことが決まりました。直近では5/29～6/2にフランス・パリで第2回政府間交渉委員会(INC2)が開催されました。それに先立ちプラスチック汚染対策の条約策定交渉に関する高野心連合(HAC)への参加を表明しました。

1人当たりプラスチック容器包装の廃棄量を国別で比較した場合、日本はアメリカに次いで世界ワースト2位です。世界中で脱プラの動きが加速する中、日本では2022年4月に「プラスチック資源循環法」が施行されました。この法律はプラスチックを規制せずに「資源として循環」させようとするのが狙いですが、もっとサステナブルな世の中に私たちの手でしていかないとはいけませんね。

## 編集後記

1年前6月2日開催の「グリーン購入シンポジウム2022」を覚えていますか?「エネルギーのグリーン購入を考える～自治体・事業者・個人が今できる事～」でした。(株)松尾設計室の松尾氏に既存住宅の省エネ改修について基調講演いただき、大阪ガス(株)の実験集合住宅「NEXT21」の話、温度と健康の因果関係についてベストハウスネクストさんからお話を伺いました。滋賀県地球温暖化防止活動推進員さんの「うちエコ診断」を受け、出来ること(シャワーヘッド交換等)から取り掛かっていましたが、昨年から本格的に自宅の省エネ・断熱改修のことを検討し始め、何度も相談に乗っていただき、先日より断熱工事が始まりました。このニュースレターが発行される頃にはまだ完了していませんが、今年の冬が少し楽しみな今日この頃です。

(事務局 / T)



編集・発行／一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階

TEL:077-510-3585 FAX:077-510-3586

Eメール:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:https://www.shigagpn.gr.jp/

